



成隣だより

令和4年4月28日
第2号
昭島市立成隣小学校
校長 松川 靖弘

想像×創造

子供たちが想像し思い描いていることを直接見ることはできませんが、子供たちが創造したものを通して知ることができます。



6年生 仲良しプロジェクト発表の様子

今、成隣小の廊下には、右側通行の矢印が貼られ、そこには「ゆっくりあるこう」などのメッセージが書かれています。(左の写真) これは、6年児童が取り組んでいる「仲良しプロジェクト」の1つです。この矢印は、「みんなが仲良く、落ち着いた学校生活を送れるように」という6年生の思いが形になったものです。私も全校朝会で取り上げ、6年生の思いを受け止める成隣の子であって欲しいことを伝えました。

成隣小の子供たちに経験・体験してほしいこと…社会の一員になるために

- ① 自分たちの生活は、自分たちでよりよくすることができるという経験
 - ② 自分たちの生活をよりよくするために、友達と協力して新しい物事を創り出す体験
- 子供たちは教職員が見守る中、学級会・委員会・クラブ・総合的な学習などの学習を通して学んでいます。

工夫×継続

コロナ禍と言われて3年目。子供たちにとって価値ある活動は、教職員が知恵を出し合い、工夫して継続させます。

4/25・26 1・2年生による学校探検が行われました。従来でしたら、1・2年生混合の少人数班に分かれ校内を2年生が案内してまわるのですが、今年度はコロナ対策として、2年生がチェックポイントに立ち、まわってきた1年生に説明をするというウォークラリー形式をとりました。(右の写真)これなら、他学年の児童が長時間交流することなく楽しく活動できます。先生方の事前準備・当日の指導は大変でしたが、2年生の誇らし気な表情や1年生のわくわくしながら校内を回る姿が見れました。この時期にしかできない意義ある活動でした。



1・2年生 学校探検の様子

成隣小の教職員が工夫し取り組む理由

「ガイドラインがあるから今までの教育活動ができない」と今まで大切にしてきた教育活動を諦めてしまうのではなく、ベテラン・若手の教職員が知恵を出し合い工夫して取り組んでいます。そこには、この時期にしか味わうことができない価値ある活動を何とか子供たちに経験させたいという願いがあります。